

放送大学における視覚障がい者への支援と課題

—ボランティア組織「菜の花の会」12年の軌跡から—

広瀬 洋子¹⁾

The Open University of Japan's Support Systems for Disabled Students

—Learning from the experiences of “Nanohana no kai”,
the voluntary support group for visually impaired students—

Yoko HIROSE

要 旨

ICT活用は世界の大学のあり方を大きく変えようとしている。放送大学においても、従来の放送授業から、インターネットによるオンデマンド型配信授業で学習する学生が増加しており、印刷教材のデジタル化も検討課題になりつつある。

日本でこうしたICTによる学習の変革を一番切実に必要とし、ここ20年、パソコンを最も先鋭的に活用し学習に役立ってきたのは視覚障がい学生である。2011年現在、放送大学に学ぶ視覚障がい者は142名。全国の高等教育機関に学ぶ視覚障がい者の20%を占めている。

放送大学では第一期卒業生の杉山和子氏がボランティア組織「菜の花の会」を立ち上げ、視覚障がい者が抱えていた印刷教材を読むことの困難さに支援がなされた。放送大学がこの地道な活動を継承し、ICTを活用した活動として発展させるために、「菜の花の会」のこれまでの活動を振り返り、記録しておきたい。

ABSTRACT

The purpose of this paper is to examine the activities and significance of 'Nanohana no kai', a voluntary support group for the visually impaired at the Open University of Japan, in terms of utilization of ICT and support for students with disabilities. This discussion will lead the way in how we build a support system for students with diverse learning needs at the Open University of Japan.

Utilization of ICT will significantly change university education worldwide. At the Open University of Japan, beyond the traditional media of television and radio broadcasting, the improvement of students' abilities to use computers, the enhancement of the e-Learning system, and digital learning materials have become pressing issues.

Digital learning materials are to achieve flexible forms of learning. In particular, for the elderly, the disabled, and international students who have language problems, a media technology which presents languages in various ways will be useful to improve their learning skills.

However, laws are required to ensure that students with disabilities are assisted. These already exist in North America, Australia, and the EU. Japanese universities may lag 20 years behind in disability services. As revealed in this paper, the Open University of Japan enrolls more than twice the number of disabled students than other universities in Japan. The increase in disability services at the Open University of Japan will not only support students at this university, but will also challenged students in other universities which share a credit-transfer system with the Open University of Japan.

¹⁾ 放送大学 (ICT活用・遠隔教育センター教授)

はじめに

本稿の目的は、放送大学の視覚障がい者をボランティアの立場から支えてきた「菜の花の会」の活動の意義と歴史を、ICT活用と障がい者支援という二つの立場から検討し、今後の放送大学における多様な学生への支援システム構築の一助とすることである。

ICT活用は世界の大学のあり方を大きく変えようとしている。放送大学においても従来型の放送メディアに加え、パソコン能力の向上、インターネット活用は喫緊の課題となっている。印刷教材のデジタル化は、柔軟でフレキシブルな学びの形を提供する。とくに、障がい者、高齢者、留学生など、教材の言語情報を享受するのにハンディのある学生にとって、「読む・聞く・見る」を多様な方法で提示するメディア技術は学習を飛躍的に向上させる。

一方、大学における障がい者支援の義務化は世界の潮流となっている。北米・豪州、EUなどの大学では、強制力を伴う法律によって支援が義務づけられており、法制化されていない日本の現状は20年遅れていると言わざるを得ない。放送大学には、通常の大学の2倍以上の障がい学生が在籍している上、単位互換にある大学にも障がい者が在籍している。多くの大学が障がい者への教育的配慮に苦慮しているのも事実である。こうした状況の中で、放送大学の障がい者支援を充実させることは、放送大学の学生のみならず、日本の大学に学ぶ障がい者全体を支援することになる。

放送大学の視覚障がい者は、140名前後。総学生数8万人といわれる大学の中では圧倒的なマイノリティに違いない。しかし、ICT活用能力に関して言えば、視覚障がいのある学生の中には一般学生よりも高い能力を持つ者が多い。ここ20年のメディア技術の進歩は視覚障がい者の学習環境を飛躍的に向上させてきたからだ。彼らのICT活用に取り添う形で支援してきた「菜の花の会」の活動を検討することは、放送大学の未来のフレキシブルな学習環境を可視化し、新たな教材の有り方や、学びの形を提案することに大きな意味を持つものと思われる。

ボランティア組織「菜の花の会」は、放送大学第一期生、杉山和子氏によって発足し、12年の活動のほとんどを杉山が担ってきた。この功績に対して2010年度の卒業式に石前学長から特別賞が授与された。放送教育開発センター在職中から大学における障がい者支援の研究を行ってきた広瀬は、「菜の花の会」の経験とノウハウを大学として継承すべく同年より杉山に障がい者支援プロジェクトの研究補佐員として協力を要請した。2011年度からは大学学生課において、二宮副学長をチーフに発足した障がい者支援ワーキングチーム

のアドバイザー的役割も担っている。この論考は杉山和子氏の協力なしには、書き得なかったものである。ここに杉山和子氏（以下、杉山）の活動に対して心からの経緯と感謝の念を表すとともに、全国の点訳サークルの関係者の方々に心からの感謝を捧げたい。

1. 放送大学における障がい者の実態

1.1 日本の高等教育機関における障がい者

日本の高等教育において障がい者への門戸開放が本格的に開始されたのは、1970年代後半である。それから40余年、日本学生支援機構の調査²⁾によれば、現在では全国の高等教育機関の64.3%が障がい者を受け入れている。急激な高齢化と、障がい者に対する世界的な人権意識の高まりが、日本社会のユニバーサルデザイン化に対する希求を高め、政府や自治体も障がい者の教育に積極的に取り組むようになってきた。

2011年度、全国の大学、短期大学及び高等専門学校に学ぶ障がい学生は8,810人（全学生数に対する割合0.27%）。全国の高等教育機関1,220校のうちの627校、つまり64.3%の機関に障がい者は在籍している。障がい学生の総数は8,810人（前年度7,103人）で、障がい学生在籍率（＝障がい学生数÷学生数×100(%)）は、0.27%（同0.22%）であった。

障がい学生8,810人の障がい種別内訳は、以下の図1を参照して欲しい。

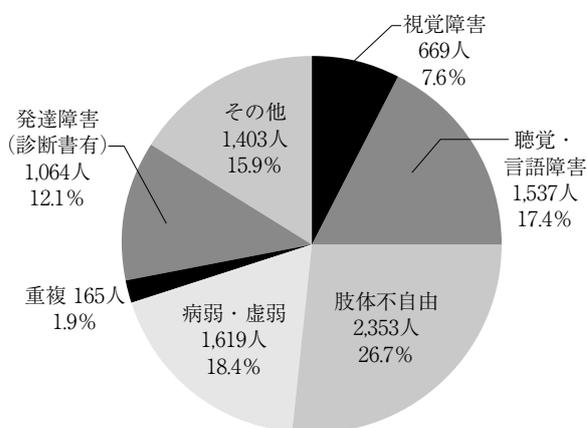


図1 障がい学生の障がい種別内訳

1.2 放送大学に学ぶ障がい者

放送大学には、2011年度5月1日現在、学部・修士課程合わせて、567名の障がいを有する学生が学んでいる。³⁾内訳は表1、表2の通りである。

放送大学における障がい学生の定義は、障がい者手帳の有無にかかわらず、「身体に障がいを有することにより修学上の特別措置を希望する者」を指す。特別

2) 身体障がい者手帳、精神障がい者保健福祉手帳及び療育手帳を有している学生または健康診断等において障がいがあることが明らかになった学生。

3) この数字は出願時に「身体に障がいを有することにより修学上の特別措置を希望する者」から抽出した。

表1 障がいを有する者の在学状況（学部）

学生種類	合計	視覚	聴覚	肢体不自由・病弱	その他
合計	522	126	11	288	97
全科履修生	388	98	7	212	71
選科履修生	87	19	4	47	17
科目履修生	43	9	0	26	8
特別聴講生	4	0	0	3	1

表2 障がいを有する者の在学状況（修士課程）

学生種類	合計	視覚	聴覚	肢体不自由・病弱	その他
合計	45	16	0	28	1
修士全科生	9	4	0	4	1
修士選科生	31	10	0	21	0
修士科目生	5	2	0	3	0

措置を望む者は、入学前に学習センターにおいて面談する必要があるが、大学側は障がい者手帳、診断書等の提出は求めているものの、強制的なものではなく、それに関する規程はない。よって多くの場合、学習センター所長の判断に任される事が多い。

ちなみに、放送大学の障がい者の在籍率は、全体の0.64%である。先の日本学生支援機構の調査では、日本の大学に学ぶ障がい学生在籍率が0.27%である。障がい者の定義が異なるので、単純な比較はできないが、放送大学には障がいがあっても申告しない者、加齢等で視力や聴力に問題がある者、また入学後に障がいを持つことになった者も数多くいる。全国でも最も障がい者が多い大学と言う事もできるだろう。

1.3 学習センターにおける障がい者への配慮

学習センターでは表3のような配慮を行っている。

表3 面接授業及び単位認定試験等での特別措置

特別措置例	備考
専用駐車場の用意	
車いすでの入室	歩行者補繩装具の装着
介助者の入室	
パソコン・テープレコーダー等の持ち込み	希望座席の措置（コンセントの近く、左側の席）
別室用意	病院での受験
試験時間の延長	試験時間の延長1.5倍
ベットのうえでの受験	特製机の持参利用
拡大鏡・拡大問題解答用紙	点眼薬の持参利用
点字または音声出題	注意・口頭伝達事項の監督者による筆談
試験監督員によるマークシートへの解答転記	
介助者による代筆解答	介助者による問題の対面朗読
点字板等	点字タイプライター使用

2. 放送大学の視覚障がい者の現状

2.1 視覚障がい者の数

ここで本論の中心となる放送大学の視覚障がい者に目を向けてみよう。2008～2011年までの4年間では、平均122.4名が在学し、障がい者全体の中で、25%を占めている。ちなみに肢体不自由は275.4名で56%、聴覚障がい15.6名で3%、その他77名で15.7%である。2011年度現在、全国の高等教育機関には、669人の視覚障がい者が在籍している。うち、放送大学には142人（学部126人、大学院16人）が学んでおり、全体の21%を占めている。放送大学は、筑波技術大学等、障がい者に特化した大学以外では、日本で最も多くの視覚障がい者が学んでいる大学と言える。ちなみに筑波技術大学は前身の筑波技術短大の頃より放送大学の単位互換校となっており、今でも多くの学生が放送大学の授業を受講している。

2.2 学習におけるバリア：「いかに文字情報を読むか」

放送大学に入学した視覚障がい者が、困難に感じているバリアには以下の事項が上げられる。

- ①大学からの情報（募集要項その他・ウェブ情報）、
- ②学習センターのバリア（単位認定試験・面接授業・施設バリア）、
- ③放送授業教材（TV・ラジオ・インターネット配信）、
- ④印刷教材、
- ⑤その他（通信指導等）が上げられる。

2.2.1 大学からの情報

大学からの情報は、募集要項・各種お知らせ、授業や試験の時間割や日程など数々あるが、ここでは、放送大学のウェブサイトについて検討したい。

放送大学ウェブサイトのアクセシビリティ⁴⁾については以下のように記載されている。

「…「アクセシブルなウェブサイト」を目指して、JIS X8341-3（「高齢者・障がい者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ」）の指針を尊重した制作・運営を行っています。尚、ページの中にはポリシーに対応していない部分もありますので、必要に応じて順次対応を図っていくよう努めます。」「音声読み上げソフトを利用している方にも正しい情報が伝わるように、画像に対する代替情報の提供や、ページの読み上げ順に対する配慮などを行っています。」

しかし、実際に読み上げソフトで読み上げると、学生にとって最も重要な情報である「授業科目と単位認定試験の一覧」などは、表になって提示されているために、読み上げソフトは表の枠に阻まれ、情報伝達の機能に問題がある。

4) <http://www.ouj.ac.jp/hp/abouthp/>

2.2.2 学習センターにおける配慮（単位認定試験・面接授業・施設面での配慮）

●試験の措置

学習センターでは、点字受験、音声受験、第三者代理解答記入などの制度を講じている。

一般的に視覚障がい者全体の中で、点字使用者の割合は7%前後であり、ほとんどは生得的、あるいは学齢期に障がいを持ち、盲学校等で教育を受けた者である。彼らの中にはパソコン操作技術が高く、健常者以上の能力を有している者も少なくない。しかし、人生半ばで障がいをもった者の多くは点字を使用できず、音声中心に情報を得ている。

次の表4は、2008（平成20）年から2011（平成23）年1学期までに、視覚障がい者が単位認定試験を音声または点字での出題を申請した数を示している。音声出題と、点字出題を要望する学生数では、点字が若干多いという点が見てとれる。

●施設面での配慮

スロープ、障がい者用駐車場、視覚障がい者用ブロック、施設内の移動、教室の点字表示などは各学習センターに任せ、大学全体としての方針はない。

2.2.3 授業教材に関する視覚障がい者への配慮

●テレビ科目・ラジオ科目

放送教材については、副音声等の特別措置は講じていない。

3. 視覚障がい者の読書環境とメディア技術

3.1 読書環境の変遷

19世紀にフランスで点字が考案され、日本でも1890年に日本点字が制定され利用されるようになった。録音図書は1970年代にカセットテープが登場し広く普及された。1980年代後半から、パソコンが登場し、音声読み上げソフトも開発され、視覚障がい者にとって、

表4 視覚障がい者への試験時の対応

出題区分		合 計				学 部				大 学 院			
		音 声		点 字		音 声		点 字		音 声		点 字	
年度・学期	科目数	受験資格者数	科目数	受験資格者数	科目数	受験資格者数	科目数	受験資格者数	科目数	受験資格者数	科目数	受験資格者数	
平均	81	118	81	129	75	112	73	121	6	6	8	8	
平成20年度	第1学期	93	135	75	118	84	126	68	111	9	9	7	7
	第2学期	85	120	82	128	78	113	69	115	7	7	13	13
平成21年度	第1学期	73	112	83	144	69	107	75	135	4	5	8	9
	第2学期	78	107	81	128	73	102	78	125	5	5	3	3
平成22年度	第1学期	77	112	89	128	71	106	80	119	6	6	9	9
	第2学期	82	121	75	126	76	115	69	120	6	6	6	6
平成23年度	第1学期	84	103	83	116	78	96	77	110	6	7	6	6
	第2学期												

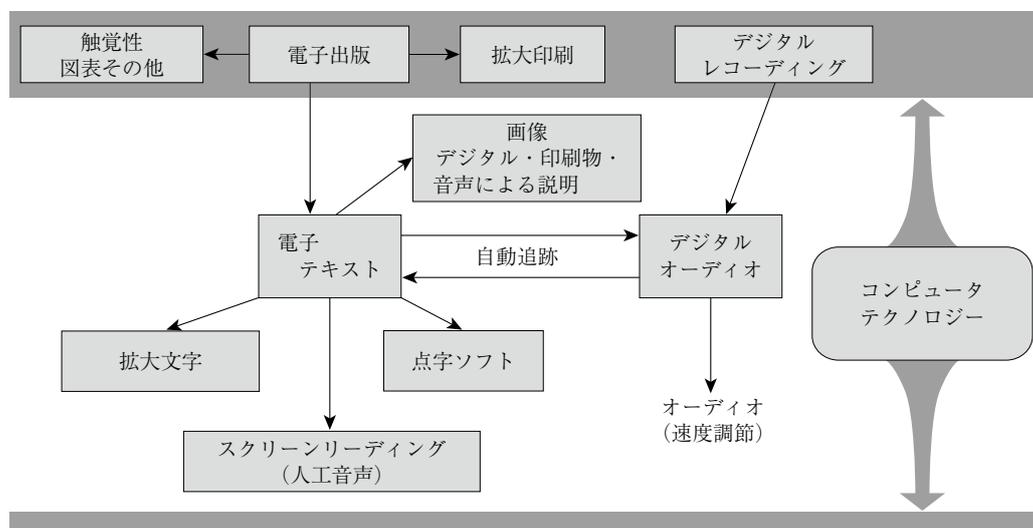


図2

テキストファイルとともに点字データファイルも重要な情報源となった。視覚障がい者もパソコンで文章を書けるようになり、点訳者はパソコンで点訳するようになった。

1990年代後半には、インターネットのホームページを音声で読み上げる事ができるようになった。さらに、OCR技術の発展により、印刷物を音声で読み上げる読書機も開発され、盲人の情報源の中にも印刷物が組み込まれるようになった。

パソコンなどICTの発達によって視覚障がい者の学習環境は飛躍的に改善した。現在、視覚障がい者の中には、ICT活用能力の高い学生がたくさんいると同時に、人生半ばで視力に障がいをきたした者や高齢者の中にはこうした技術を享受できない者もいる。

3.2 メディア技術を活用した視覚障がい者の読書方法

印刷教材を電子テキスト化することによって、スクリーンリーディング、拡大文字、点字ソフト化、デジタルオーディオなど障がいに合わせてインターフェースを選択できるような視覚障がい者のための学習電子環境の構築を進めてきた。点字は、点字プリンターで打ち出して読み、他に、パソコンに繋がった点字ディスプレイ⁵⁾という装置で読むこともできる。

4. ボランティア組織「菜の花の会」

4.1 成り立ちと活動の歩み

ボランティア組織「菜の花の会」は、放送大学の第一期生、杉山和子（以下、杉山）によって発足。

杉山は仙台の高校を卒業後、日本板硝子に就職、結婚し家庭に入り、二人の子育てをした後、1985年に放送大学に第一期生として入学、1989年に「発達と教育」を修了し卒業。卒業後、点字を学び、理数点訳サークルと英語専門点訳サークルの二つに所属し、点訳ボランティアを始める。

・1999年（平成11年）

杉山は、日本点字図書館の専門書対面朗読ボランティアとして、放送大学の全盲の学生に出会った。視覚障がい者が抱える最大の問題は「印刷教材」を「どのように読むか」ということに気付き支援を始めた。

視覚障がい者が印刷教材を読む場合、以下の方法がある。

①朗読テープ、②点訳、③デジタルデータをパソコン読み上げソフトで読む。

印刷教材の点訳本を入手したい学生は、各地に点在するボランティアの点訳サークルに依頼する。

しかし、点訳サークル間の情報は共有されていないために、同じ科目の印刷教材が各地で重複して点訳されている可能性がある。かつては、点訳は手仕事で紙

に点を打っていたが、最近ではパソコンの点訳ソフトで点字化され、点字データとして保存することが可能となっている。そこで、杉山は、大学側・学生・点訳サークルが随時、点訳済み印刷教材と所在の情報を閲覧できるためのデータベースを構築する必要性を痛感する。

恩師の星薫准教授に相談したところ、障がい者支援に熱心な三ツ木任一、埼玉学習センター所長に紹介され、その後、麻生副学長に面会。副学長の計らいで、杉山は教務課から視覚障がい者の連絡先リストを入手する。これによって視覚障がい者に直接連絡し、印刷教材の点訳に関する情報を把握することが可能となる。

・2000年（平成12年）

放送大学、ボランティアサークル「菜の花の会」が正式に発足する。

点訳済みリスト作りを開始する。

視覚障がい者に、会の目的、活動内容を付した点字の手紙を送付し、点訳に関する情報を収集する。

5月、第1回「点訳済みリスト」を発行。その後は年に2回情報を更新し発行。

リストには、点訳済みと点訳中の科目名、点訳データを保有する点訳サークルの連絡先が記載されている。リストは、放送大学の教務課の担当者と点訳サークルに郵送され、情報共有が可能となる。これによって学生は必要な点訳データを保有するサークルから受け取ることが可能となり、重複点訳がなくなる。

・2001年（平成13年）

2学期分から、単位認定試験、放送授業時間の時間割を杉山が点訳し、学生への無料送付開始。放送大学の広報TV「大学の窓」で「菜の花の会」の活動が紹介される。

・2003年（平成15年）

丹保学長に「菜の花の会」の活動を説明する機会を得る。放送大学広報誌「On Air」、TV「大学の窓」に紹介される。教材課が杉山に、点訳する印刷教材を事前に貸与することが開始された。点訳するには1冊のテキストに2か月程度要する。学期が始まる数か月前に杉山が印刷教材を点訳サークルに渡すことで点訳作業が円滑になる。

・2006年（平成18年）

大学の教材課が、印刷教材テキストデータの配布を開始する。教材課が、印刷教材を出版する放送大学教育振興会から印刷教材のテキストデータを得て、必要とする学生に提供することが可能となる。学生はテキストデータをパソコンの読み上げソフトを利用して読むことが可能になる。

しかし、教材課が配布するデータは、読み上げソフトでは読みにくい状態であった。教務課と協議した結果、「菜の花の会」が学生の代理としてテキストデー

5) パソコン画面に表示される情報をリアルタイムに点字で表示するディスプレイ。

タの申請を行い、届いたデータを修正し、学生に提供することになった。

・2007年（平成19年）

杉山の夫がパーキンソン病を発病。

・2009年（平成21年）

夫の介護のために、2011年の5月15日付をもって活動を終結することを決意し大学に連絡。

・2010年（平成22年）

放送大学の卒業式に長年にわたる「菜の花の会」の活動に対して、特別表彰を受ける。

・2011年5月15日（平成23年5月15日）

「菜の花の会」の最後のリスト『点訳済み科目名リスト第23号（最終号）』を発行。

これまでに協力してくれた点訳サークルに感謝の意をこめて、杉山が23年間に調べた約3万名の人名の読み方を入れたCDを送付。

「菜の花の会」の活動作業は次の図3に示す通りである。

- ①視覚障がい学生からの学習に関する個別相談
- ②点訳済みリストの作成
- ③テキストデータの修正
- ④早期点訳依頼の対応
- ⑤大学の重要な情報（単位認定試験と放送授業の時間割）の点訳とテキストデータを学生に直接送付。

4.2 「菜の花の会」活動内容

更に具体的に「菜の花の会」の活動と支援の内容について記述する

1) 「点訳済みリスト」作成に関しての活動
年に2回、5月と11月に更新し発行。

2) テキストデータに関する活動

2006年春から大学側が、申請する学生にテキストデータの提供を開始。当初は、直接申請し、テキストデータを入手する学生が数人いたが、その学生達から、大学から貰ったテキストデータがパソコンで読めないという相談があった。そのため「菜の花の会」では、以下のような支援を行った。

菜の花の会の支援

- ①学生から電話かメールで、テキストデータの依頼を受けると、杉山の手元にデータがある場合は、学生にメール添付あるいはフロッピーディスクで送付。テキストデータが手元にない場合は、杉山が大学側の申請用紙に、日付、科目コード、科目名、申請学生名、住所を記入して申請する。
- ②大学からは科目ごとにCDに入れたテキストデータが杉山に送付される。しかし、テキストデータは不完全なものが多いので、学生が読めるような形に修正し学生に送る。同じ科目を申請してきた学生の場合は、大学には申請せずすでにあるデータを学生に送付する。
- ③大学から届いたテキストデータは訂正し保存し、フォルダにまとめて保管し、テキストデータリストを更新しておく。これらは大学院も同様である。
- ④作業は年に2回行っているが、テキストデータの訂正作業はそのデータの完成度によって異なる

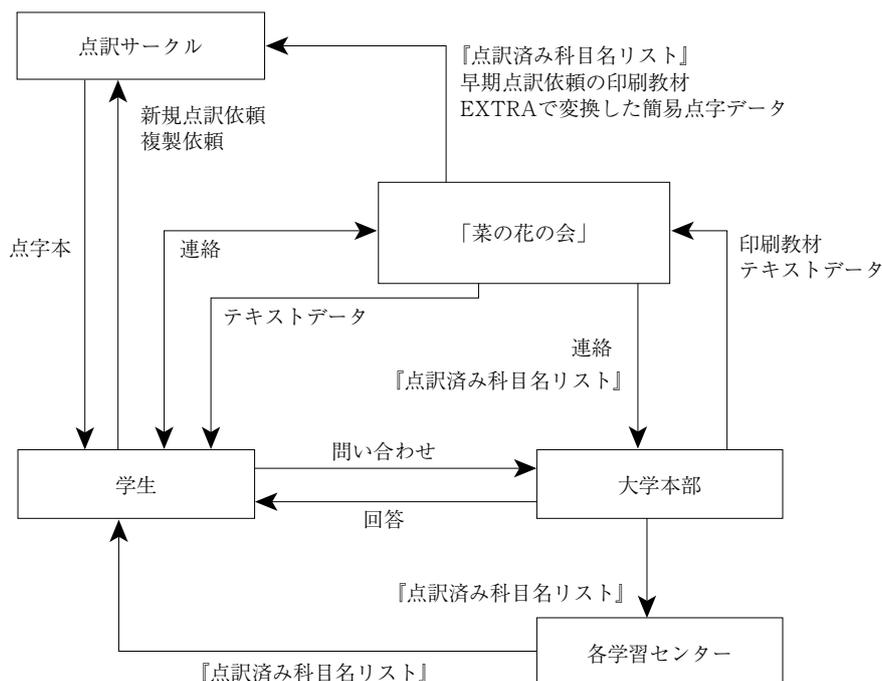


図3 「菜の花の会」作業の流れ図（2010年度）

が、1日から3日を要する。年度が替わるごとに閉講科目については別フォルダにまとめる。リストの更新も行う。

3) 「早期点訳依頼」に関して

2003年4月から、丹保学長の配慮で、大学に申請すれば次の学期に科目登録する予定の科目の印刷教材が借りられるようになる。

- ①学生は、学期が始まる半年前に、印刷教材の点訳を点訳サークルに依頼する。それを杉山に連絡。
- ②杉山は学生からの連絡をまとめて、大学に印刷教材貸与を申請。
- ③大学から杉山に教材が送付され、杉山が各点訳サークルに送付。
- ④点訳完了後は、点訳サークルから学生に点訳本を送付。
- ⑤これらの科目名はリストに反映させる。

4) 「菜の花の会」の協力員について

2002年の「On Air」によって「菜の花の会」の活動が紹介され、テキスト入力者、点訳者が数名ずつ協力を申し出てきた。その人達には「通信指導」の入力を引き受けて貰った。通信指導には締め切りがあるため、学生一人につき、入力者一人として入力にあたった。

5) 時間割について

杉山が学期ごとに単位認定試験と放送授業の時間割のテキストデータ化と点訳をする。

6) 学生からの相談

学生は放送大学の仕組みやその他について、いろいろな事が分からず、相談する相手も限られているため、電話、メールで相談してくるので、杉山が相談役となっていた。卒業後も進路や学習方法、そのほかいろいろな相談をしてくる学生が多数いた。

7) 運営費用について

「菜の花の会」は会費等を徴収しておらず、活動に必要な費用はすべて杉山が負担していた。

5. 放送大学に求められる支援システムの構築にむけて

ここまで、12年の長きに渡り、「菜の花の会」の活動が放送大学に学ぶ多くの視覚障がい者の学習を支えていた経緯と内容について論じてきた。その成功の秘訣は、第一に、杉山自身が放送大学の第一期生であり、放送大学の学習方法やしぐみを理解している点である。第二に、卒業後に、杉山自身が点字と出会い、研鑽を積むことによって、理科系・文化系・英語等の幅広い点訳をこなせる数少ない点訳者として成長し、視覚障がい者と触れあう中で、彼らの学習上の問題点

を一つ一つ取り除く努力を惜しまなかった点である。第三には、杉山自身の学びへの飽くなき情熱が、近年の目覚ましいメディア技術の発展を常に先取りする形で学習し、視覚障がい者支援を発展させてきたことがあげられる。「菜の花の会」の歴史は、家庭人として子育てをしてきた一人の主婦が、放送大学で学ぶことを契機に、視覚障がい者の学習支援において傑出した活躍をする専門家に成長した記録ともいえよう。

ここでは詳しくは論じないが、米国、カナダ、豪州、EU諸国などでは、強制力を持つ法の力によって、教育における障がい者支援がなされており、ほとんどの大学に障がい者支援部局が設置され、学習の支援が行われている。杉山によって支えられてきた視覚障がい者支援が、今後、どのような形で放送大学が受けとめ、継承していくことが出来るのか、あるいは、後退して行ってしまうのか、放送大学の真価がまさに問われている。

5.1 新しい大学の試み

ここで新しい大学の動きを紹介しよう。

特別支援検討ワーキンググループの誕生

放送大学では、2011年4月から二宮副学長を筆頭に、学生委員会の中に「特別支援検討ワーキンググループ」が設けられ、放送大学における障がい学生の修学に関する特別支援の改善や充実についての検討が始まった。視覚障がい者に関していえば、以下の3点が喫緊の課題である。

1) 放送大学のウェブページのアクセシビリティ

米国、豪州、カナダ、EUでは、大学を含む公共機関のウェブページのアクセシビリティの確保は社会的コンセンサスとなっており、大学側は内側からも常にアクセシビリティには目を配っている。放送大学の現在のウェブページに関しては、その運営方法や掲載方法については、多いに議論すべき課題である。

2011年9月から、放送大学のウェブページのバナーの真下に、「視覚障がい者の方へ」というリンクを作成し、「単位認定試験」と「放送授業時間割」の掲載をスタートさせた。これは、学生課において杉山が、パソコンの読み上げソフトで読みやすい形式に加工したものである。11月には2012年1学期の情報も加えられた。

現段階では、情報内容は限られているが、今後、いかに多くの情報をアクセシブルな形で提供することができるかが課題である。

2) 点訳済みリストの更新と公表

視覚障がい者にとって、放送大学で履修するさいに、どの科目がすでにテキストデータ化されているか、あるいは点訳されているのか、についての情報は必要不可欠なものである。「菜の花の会」の活動停止に伴い、これらのリストは、2011年5月現在を最後に

とどまっている。これらのリストの更新を、いかに大学側が継続していくかが問題である。

そして、ウェブ上に更新した最新の科目名リストを掲載することが望まれる。これを実現させるためには、放送大学が全国の点訳サークルと連携し協力体制を整えることが必要ではないかと思う。

3) 印刷教材のテキストデータ化

大学側が、現在、テキストの発行元である放送大学教育振興会から提供を受けている印刷教材のテキストデータは、必ずしもパソコンの音声読み上げソフトでは読みやすいものではないので、「葉の花の会」では修正をおこなって学生に渡していた。今後は、その修正をどのような形で大学側が行うかが問題である。さらに言えば、印刷教材の電子ブック化が実現すると、そのまま読み上げソフトで読むことが可能となる。こうした教材のメディア化は、今後の放送大学にとっては、喫緊の課題である。

まとめ

障がい者支援の研究と実践は、単にマイノリティである障がい者だけに資するものではない。読み・書き・聞くことに困難を持つ学生の支援は、たとえば日本語の知識の少ない留学生や海外の学生にも多いに役立つ学習スタイルを提案することにつながる。開かれた大学、ICTを活用したフレキシブルな学習形態、多様な学生のための多様な学びの実現、これら放送大学の目指す教育目標は、障がい者支援の実践と多に関連するものである。今後、放送大学がインターネットの活用、双方向性の高い授業、印刷教材等の電子化など、新たなチャレンジを進展させる中で、大学全体として障がい者支援の意識を向上させ、FDの機会を増やし、また障がい者支援の最前線にある学習センターとの連携を強化させていくことが重要である。

最後に杉山和子氏と、彼女を支え励ましてこられたボランティアの方々と、ご家族の皆さまに心からの敬意と感謝を表したい。

放送大学テキストデータリスト⁶⁾

2011年4月30日現在

外国語科目

英語購読 (08)
英語の基本 (08)
基礎からの英文法 (09)
実践英語 (10)
フランス語入門Ⅰ (06)
フランス語入門Ⅱ (06)
Political Economy of Japan (10)

あ行

アグリビジネスの新たな展開 (10)
アジアの社会福祉 (10)
運動と健康 (09)
欧米の社会福祉の歴史と展望 (11)

か行

格差社会と新自由主義 (11)
かしこくなる患者学 (07)
家族のストレスとサポート (08)

学校教育論 (08)
環境と社会 (09)
観光の新しい潮流と地域 (11)
看護学概説 (10)
感染症と生体防御 (08)
記憶の心理学 (08)
技術者倫理 (09)
基礎看護学 (10)
教育心理学概論 (09)
教育と社会 (11)
教育と心理の巨人たち (10)
教育入門 (11)
教育の社会史 (08)
行政法と市民 (06)
経営学入門 (07)
経済学入門 (08)
経済社会の考え方 (07)
芸術史と芸術理論 (10)
健康と社会 (11)
現代を生きる哲学 (07)
現代世界の結婚と家族 (08)
現代都市とコミュニティ (10)
現代日本社会における音楽 (08)

6) 振興会からのデータを、読み上げソフト対応に杉山が修正した教材のリスト。大学の教材課と点訳サークルに送付され、大学から学生に無料で送付される。

現代の教育改革と教育行政 (10)
 現代の生活問題 (11)
 現代の犯罪と刑罰 (09)
 現代東アジアの政治と社会 (10)
 公衆衛生 (09)
 幸福の社会理論 (08)
 功利主義と分析哲学 (10)
 高齢者の生活保障 (11)
 国文学入門 (08)
 心の健康と病理 (08)
 こころとからだ (07)
 言葉と発想 (11)
 子どもの生活と児童福祉 (11)
 子ども・若者の文化と教育 (11)
 コミュニケーション論序説 (07)
 今日のメンタルヘルス (11)
 コンピュータのしくみ (08)

さ行

財政学 (10)
 在宅看護論 (11)
 ジェンダーの社会学 (08)
 思春期・青年期の心理臨床 (09)
 肢体不自由児の教育 (10)
 実存と現象学の哲学 (09)
 失敗予防の住まい学 (09)
 疾病の成立と回復促進 (11)
 児童・生徒指導の理論と実践 (11)
 市民生活における社会保険 (08)
 社会と銀行 (10)
 市民と社会を生きるために (09)
 市民と社会を考えるために (11)
 社会階層と不平等 (08)
 社会学入門 (10)
 社会心理学の基礎と応用 (08)
 社会の中の科学 (08)
 社会の中の芸術 (10)
 社会福祉における権利擁護 (08)
 社会福祉入門 (08)
 授業研究と学習過程 (10)
 循環器病の健康科学 (11)
 生涯学習と自己実現 (06)
 障がいと共に暮らす (09)
 情報の世界 (10)
 情報ネットワークとセキュリティ (10)
 食と健康 (06)
 食品の安全性を考える (08)
 初歩からの化学 (08)
 初歩からの数学 (08)
 初歩からの生物学 (08)
 初歩からの物理学 (08)
 人格心理学 (09)

人口減少社会のライフスタイル (11)
 人体の構造と機能 (05)
 人文地理学 (08)
 心理カウンセリング序説 (09)
 心理学研究法 (08)
 心理学史 (10)
 心理学入門 (06)
 心理統計法 (11)
 心理臨床とイメージ (10)
 心理臨床の基礎 (08)
 人類の歴史・地球の現在 (07)
 スクールカウンセリング (10)
 住まい論 (10)
 生活知と科学知 (09)
 生活とリスク (07)
 精神分析とユング心理学 (11)
 生命と環境の倫理 (10)
 西洋哲学の誕生 (10)
 世界の中の日本 (09)

た行

大学と社会 (08)
 太陽系の科学 (10)
 多様化時代の労働 (10)
 地域教育の創造と展開 (08)
 地域福祉の展開 (10)
 地球的課題と法 (10)
 知的障がい教育総論 (10)
 著作権法概論 (10)
 哲学への誘い (08)
 道徳教育論 (09)
 特別支援教育総論 (11)

な行

日本近現代史 (09)
 日本語学 (09)
 日本国憲法 (05)
 日本語からたどる文化 (11)
 日本語表現法 (07)
 日本政治外交史 (07)
 日本の近世 (07)
 日本の近代文学 (09)
 日本の古典—古代編 (09)
 日本の思想 (08)
 日本のマスメディア (07)
 乳幼児・児童の心理臨床 (11)
 乳幼児の保育と教育 (11)
 認知科学の展開 (08)

は行

発達心理学概論 (11)
 文学の愉しみ (08)
 変動する社会と暮らし (07)
 文化人類学 (08)
 分子生物学 (09)
 保育カウンセリング (08)

ま行

マーケティング論 (08)
 身近な統計 (07)
 問題発見と解決の技法 (08)

や行

ヨーロッパ政治史 (10)
 ヨーロッパの歴史と文化 (09)
 ら行
 リハビリテーション (07)
 歴史と人間 (08)

面接授業

医療・看護の英語
 保健体育 (福岡学習センター・2008年2月)

その他

学生生活の葉 (2009年度)

2011年3月末で閉講する科目

英語総合B (07)
 ドイツ語入門Ⅰ (06)
 ドイツ語入門Ⅱ (06)
 NPOマネジメント (07)
 音楽理論の基礎 (07)
 科学的な見方・考え方 (07)
 感情の心理学 (07)
 がんの健康科学 (06)
 基礎発達心理学 (06)
 教育社会学 (07)
 計量心理学 (06)
 現代日本の政治 (07)
 現代の生活問題 (07)
 高齢期を支える社会福祉システム (07)
 雇用・福祉・家族と法 (07)
 在宅看護論 (04)
 細胞生物学 (07)
 疾病の回復を促進する薬 (07)

疾病の成立と回復促進 (05)
 市民と社会を考えるために (07)
 少子化時代の児童福祉 (07)
 消費者と証券投資 (07)
 情報と社会 (06)
 進化と人間行動 (07)
 人口減少社会の生活像 (06)
 身体福祉論 (07)
 生徒指導 (06)
 政治学入門 (07)
 精神分析入門 (07)
 世界の名作を読む (07)
 特別支援教育基礎論 (07)
 特別支援教育総論 (07)
 日本の古代 (05)
 乳幼児・児童の心理臨床 (07)
 認知心理学概論 (06)
 脳科学の進歩 (06)

2010年3月末で閉講する科目

英語総合A (05)
 英語中級B (06)
 フランス語基礎 (06)
 アグリビジネスと農業・農村 (06)
 アジアの社会福祉 (06)
 衣生活の科学 (06)
 演劇入門 (06)
 看護学概説 (05)
 基礎看護学 (04)
 暮らしの防犯と防災 (06)
 現代コミュニティ論 (06)
 子ども・青年の生活と発達 (06)
 財政学 (05)
 自我の社会学 (05)
 授業研究と談話分析 (06)
 神経心理学 (06)
 心理学史 (05)
 スクールカウンセリング (05)
 生命と人生の倫理 (05)
 前近代の東南アジア (06)
 地域福祉論 (06)
 著作権法概論 (06)
 日本の古典—江戸文学編 (06)
 日本の古典—散文編 (06)
 発達障がい児の心と行動 (06)
 発達障がいの教育支援法 (06)

2009年3月で閉講した科目

英語基礎A (05)
 応用心理学 (05)
 カウンセリング概説 (05)

近代の日本文学 (05)

公衆衛生 (05)

古代地中海世界の歴史 (04)

自己を見つめる (02)

障がい者福祉論 (05)

人格心理学 (04)

生活の動態と経営 (05)

生物学の歴史 (05)

第三世界の政治 (05)

統計学とその応用 (05)

動物の行動と生態 (04)

日本語学概説 (06)

日本語の歴史 (05)

日本政治思想史 (05)

日本の古典—古代編 (05)

日本の食文化 (04)

日本文学における住まい (04)

発達と教育の心理学的基盤 (05)

東アジアのなかの日本文化 (05)

表象としての日本 (04)

服飾と心理 (05)

仏教の思想 (05)

保健体育 (05)

幼児の教育と保育 (04)

2008年3月で閉講した科目

英語II (03)

アメリカの歴史 (04)

欧米経済史 (04)

学習科学 (04)

家庭・学校と地域社会 (04)

現代科学と医療 (04)

国際政治 (04)

国文学入門 (04)

心の科学 (04)

社会保険と市民生活 (04)

上代の日本文学 (04)

臨床心理学概説 (03)

2007年3月で閉講した科目

英語IV (03)

近世日本の歴史 (03)

現代社会におけるライフコース (03)

高齢者福祉論 (03)

身体福祉論 (03)

中小企業の挑戦 (03)

日本政治史 (03)

発達障がい教育論 (06)

放送大学大学院テキストデータリスト

2011年4月30日現在

	精神医学特論 (10)	
か行		た行
家族心理学特論 (10)		
学校臨床心理学特論 (09)	大学のマネジメント (08)	
教育文化論特論 (11)		な行
行政裁量論 (11)		
現代教育改革論 (11)	認知行動科学 (06)	
現代社会心理学特論 (11)		は行
公共哲学 (10)		
国際政治 (07)		
さ行	発達心理学特論 (11)	
	法システムII (07)	
社会心理学特論 (09)		り行
社会的自我論 (08)		
社会福祉研究 (10)		
障がい児・障がい者心理学特論 (08)	臨床心理学研究法特論 (06)	
生涯発達心理学研究 (11)	臨床心理地域援助特論 (11)	
心理・教育統計法特論 (09)	臨床心理面接特論 (07)	

2011年3月末で閉講する科目

経営システム I (06)
 発達心理学特論 (07)
 法システム I (06)
 臨床心理学特論 (05)

2010年3月末で閉講する科目

EU論 (06)

福祉政策I (06)
 福祉政策II (06)
 法システムIII (06)

2009年3月で閉講した科目

学校臨床心理学 (05)
 技術社会関係論 (04)
 経済政策 I (05)
 経済政策II (05)
 地方自治政策 I (05)

放送大学印刷教材点訳済みリスト一覽⁷⁾

(第23号・最終号)(2011年5月15日現在)

「菜の花の会」作成

- (1) 下記リストは2011年度に開講中のものを書いてあります。
- (2) ないぶネットは2010年4月に「サピエ図書館」に名称が変更になりました。データを入手するには学生の居住地または勤務先住所の点字図書館に問い合わせてください。
「サピエ図書館」URL: <https://library.sapie.or.jp/cgi-bin/CN1MN1?S00101=S00MNU01>
- (3) 重複点訳のものはそのまま書いてあります。
- (4) 以下のデータは最初の依頼者の希望仕様で点訳してあります。入手時にはそれらを確認してください。
- (5) 点訳サークル名に---と記入してある欄はデータの提供を受けたものです。

松戸点訳会
 Political Economy of Japan 10 林敏彦
 松戸点訳会

あ行

か行

学校教育論08 田中統治
 神戸点字図書館サピエ図書館
 かしこくなる患者学07 高柳啓作ほか
 市川点訳朗読友の会
 看護学概説10 高橋絹子 松戸点訳会
 記憶の心理学08 太田信夫 WelNet 宮城
 教育心理学概論09 太田信夫 --- 市川点訳朗読友の会
 教育と心理の巨人たち10 岩永雅也 点訳TABATA
 (打ち出しの場合は市川点訳朗読友の会まで)
 教育の社会史08 辻本雅史
 神戸点字図書館サピエ図書館
 現代の犯罪と刑罰09 大越義久
 グリーントマト
 公衆衛生09 多田羅浩三 松戸点訳会
 幸福の社会理論08 高坂健次 市川点訳朗読友の会
 --- 2 ---
 ころとからだ07 岩永雅也ほか
 花の会
 (打ち出しの場合は市川点訳朗読友の会まで)
 心の健康と病理08 齊藤高雅
 神戸点字図書館サピエ図書館

科目名開講年度著者点訳サークル問い合わせ先**語学**

英語の基本 (べた打ち) 08 大橋里枝
 市川点訳朗読友の会
 英語の基本 (2級点訳) 08 大橋里枝
 市川点訳朗読友の会
 英語購読 (べた打ち) 08 大橋里枝
 神戸点字図書館サピエ図書館
 実践英語10 大石和欣 松戸点訳会
 ドイツ語入門 I (べた打ち) 06 鍛冶哲郎
 つつじ点訳友の会
 ドイツ語入門 II (べた打ち) 06 鍛冶哲郎ほか
 つつじ点訳友の会
 基礎からの英文法09 大橋里枝

7) このリストは「菜の花の会」から、各点訳サークルと大学本部学生課に送付される。視覚障がい者には各学習センターから墨字のプリントで渡される。ここではプライバシーの観点から点訳サークルの担当者の個人名は省略する。

コミュニケーション論序説07 大橋理枝
市川点訳朗読友の会

さ行

肢体不自由児の教育10 西川公司
神戸点字図書館サピエ図書館
実存と現象学の哲学09
点訳TABATA

(打ち出しの場合は市川点訳朗読友の会まで)
思春期・青年期の心理臨床09
市川点訳朗読友の会

失敗予防の住まい学09 服部岑生
点訳TABATA

(打ち出しの場合は市川点訳朗読友の会まで)
市民と社会を生きるために09 林敏彦
花の会

(打ち出しの場合は市川点訳朗読友の会まで)
社会階層と不平等08 原純輔ほか
市川点訳朗読友の会

社会福祉入門08 大橋謙策
グリーントマト

生涯学習と自己実現06 堀薫夫ほか WelNet 宮城
障がいと共に暮らす09 河野正輝ほか
花の会

(打ち出しの場合は市川点訳朗読友の会まで)
授業研究と学習過程10 秋田喜代美
神戸点字図書館サピエ図書館

食と健康06 中谷延二ほか
市川点訳朗読友の会

初歩からの数学08 岡本和夫ほか
菜の花の会 市川点訳朗読友の会

人格心理学09 大山泰宏花の会

(打ち出しの場合は市川点訳朗読友の会まで)
人体の構造と機能05 菱沼典子ほか
花の会

(打ち出しの場合は市川点訳朗読友の会まで)
心理カウンセリング序説09 WelNet 宮城

心理学史10 西川泰夫ほか
市川点訳朗読友の会

心理臨床とイメージ10 小野けい子
市川点訳朗読友の会

心理臨床の基礎08 小野けい子
つつじ点訳友の会

人類の歴史・地球の現在07 本多俊和
神戸点字図書館サピエ図書館

生活知と科学知09 奈良由美子
点訳サークル「虹」

生命と環境の倫理10 清水哲郎
神戸点字図書館サピエ図書館

た行

大学と社会08 安原義仁
神戸点字図書館サピエ図書館
地域教育の創造と展開08 岡崎友典
神戸点字図書館サピエ図書館
知的障がい教育総論10 太田俊己
神戸点字図書館サピエ図書館
哲学への誘い08 佐藤康邦
神戸点字図書館サピエ図書館

— 3 —

な行

日本国憲法05 大石眞
菜の花の会 市川点訳朗読友の会
日本近現代史09 小風秀雄
神戸点字図書館サピエ図書館
日本語表現法07 杉浦克己
市川点訳朗読友の会
日本の近世07 杉森哲也 WelNet 宮城
日本の近代文学09 島内裕子
神戸点字図書館サピエ図書館
日本のマスメディア07 柏倉康夫ほか
花の会 (打ち出しの場合は市川点訳朗読友の会まで)
認知科学の展開08 西川泰夫
神戸点字図書館サピエ図書館

は行

文学の愉しみ08 柴田元幸ほか
神戸点字図書館サピエ図書館
保育カウンセリング08 滝口俊子
つつじ点訳友の会亀地靖子

や行

ヨーロッパ政治史10 平島健司
グリーントマト

ら行

歴史と人間08 草光俊雄
神戸点字図書館サピエ図書館

面接授業用テキスト

☆医療・看護の英語
菜の花の会 市川点訳朗読友の会
〃 (ベタ打ち) 菜の花の会 市川点訳朗読友の会
中国語音節表
菜の花の会 市川点訳朗読友の会

ドイツ語テキスト「Alles klar! (アレス・クレール!)」
01 関口一郎 (郁文堂)
菜の花の会 市川点訳朗読友の会
(以上、56科目+面接授業用3が現在の大学科目のデータ数です。)

大学院点訳科目
法システムⅡ07 広瀬清吾
点訳ウィズサピエ図書館
大学のマネジメント08 山本真一
点訳ウィズサピエ図書館

(2011年11月22日受理)